

## これからの人材とその育成



工学博士 飯田 嘉宏  
横浜国立大学 名誉教授 (前学長)

政府を中心として「教育再生」の議論がなされたのは数年前のことであった。大きな関心を持って見守ったが、一部を除いては技術論ばかりが多くて残念に思っていた。教育再生は我が国の将来だけでなく企業等各組織の盛衰や社会の健全性にも係わるものであり、基本的な視点からの議論が必要と考えている。

ここで教育とは何かについて広辞苑から引用してみよう。『人間に他から意図を持って働きかけ、望ましい姿に変化させ、価値を実現する活動』とある。「意図」と共に、「望ましい姿」つまり大学ならば育成人材像の理解と提示があってこそ、価値を実現する教育が効果的に出来ることをこの定義が示唆している。しかし「望ましい姿」については、我が国の特に公教育では「有為な人材」程度の漠としたものだったり、逆に技術者や官僚等の目的指向的な職業像が示されるのが普通であった。

人の機能性を重視しての人材は以下の3種に分けられると言う。

- (A) 「目標設定型」：環境を自ら認識し、その環境下で目標を設定し実現できる。
- (B) 「目標達成型」：目標が与えられたとき、それに到達する過程を見出し実現し得る。
- (C) 「過程実現型」：目標とそれに至る過程が与えられたとき、それを実現できる。

ここで、「目標」が重要なキーワードであることに先ず留意したい。そして (A) 型は行うべき目標を考えて設定し実現するから、多くの場面でリーダーと成り得る人材である。(B) 型は貴重な実務型人材、(C) 型は真面目な指示待ち人間とでも言えるであろうか。

さて、量的拡大によって発展した20世紀に対して、21世紀は質を求めて知の価値が高まった一方、資源・環境問題等は深刻になり、政治・経済等の諸問題や世相は複雑化し、混迷の度が増すばかりのように思える。こうした時代には、社会や人や政治のあり方から組織や技術等の進退など様々な場面において、世の風潮に流されないで周りの状況を的確に判断し、目標やビジョンを提示してそれを実現する人材が多く必要である。上記の分類で言えば (A) 型である。

しかし周囲を良く見れば、(A) 型は非常に少なく (B) 型はある程度は居るが、(C) 型の範疇が多いことが残念ながら判る。我が国は教育国の筈なのに何故であろうか。過去の教育の在り方が現在に適合していないからではないか。この理解の下に「教育再生」を論じることが必要だと考える。

明治以来の教育は非常に優れていたことに異論はないが、この教育は原理的に欧米の考え方や社会システム或いは技術等を全ての目標とし、それらを優れた教師が学生達に教え授けるものであったのではないか。その結果として短期間で高度の「殖産興業」国となったが、常に欧米なる「目標」があったから目標の設定を可能とするための教育は余り必要なく、教育は (B) (C) 型人材育成で行われたと考えられるのである。

そして社会システムや技術において欧米とほぼ同等になった現在は、日本人自らが各場面において目標を設定出来る人材、つまり (A) 型を多く育成する必要がある。しかし、成功体験のまま過去の教育を引きずっているかに見える現在の教育は、その育成に大きな問題があると思う。「教育再生」とは、過去の教育から脱却し(優れた点は残して)、(A) 型または (B) 型育成の教育に意識的にギアチェンジすることだと考えている。小中高教育や企業教育等でも同様であろう。紙面の都合でこうした教育内容や方法についてここで触れることは出来ないが、一言で言えば「教えるより考えさせること」である。一部の大学においては、以上を目指した教育改革に努力している。